法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-04-05

音を連想させる英語動詞群の意味分析

ITO, Koichi / 伊藤, 幸一

(出版者 / Publisher)
法政大学教養部
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編 / 法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編
(巻 / Volume)
85
(開始ページ / Start Page)
137
(終了ページ / End Page)
149
(発行年 / Year)
1993-02
(URL)
https://doi.org/10.15002/00005450

Hosei University Repository

音を連想させる英語動詞群の意味分析

伊　藤　幸　一

はじめに

音を連想させる英語動詞表現は明らかに存在する。しかし，数が揃って，然るべき体系を持った意味場を形成するのだろうか。言語は抽象能力を持っているとはいえ，世の中には無限といって良い程の音が存在する。該当する動詞表現自身，特殊なのではないか。まず，『はじめに』考えざるを得ない。

静かな室内から，ひとたび外に出ると，車の音が，工事の音が聞こえて来る。車を含め機械や道具を使用する意には音を発する意は含まれない。しかし楽器を使用する意には含まれる。言語音を使用して，お喋りする意は，どうであろうか。この意味領域が，ボンヤリ見えてくる。

明らかに音を発する意の動詞表現であっても，それ以外，例えば，その音を引き起こす物理的変化の意を持つことがある。それは良いとしても，その意味する音の範囲が多種，多岐に渡るならば，どう扱うべきか。更に，共通の核を見つけられない場合は，中心的な意味を見い出し，残りを延長・拡大，あるいは比喩であると見て良いのか。他の意味場に属する語彙と同様な問題を抱え，特殊では，なさそうである。

既に，いくつかの意味領域の分析において，音を連想させる動詞表現に言及しているが，それを参照して補充していくと，ひとつの意味場を形成するに足る数の表現を得る。残る問題は，然るべく分類が出来るかどうかである。

本稿では一応，該当する語彙を『人間的』『物理的』『自然的』と大きく分類する。『人間的』では「SPEAK と TALK」，『物理的』では「口・手・足」「動くこと」「動かすこと及び物理的変化」，『自然的』では「液体及び気体」を，それぞれ連想させる動詞群の意味分析と一部，重複することになる。新たに≪生理的≫≪楽器≫≪動物≫等を加えて考察する。

音は人間の五感のうち，最も優越するであろう視覚に負けず劣らずの聴覚に

Hosei University Repository

関わり，取りも直さず，認識的意味論にとっても重要である。演劇，放送，映画等での擬音は，その場の演出効果を高める。実際ならば，音など聞こえないであろう状況においても，誇張して効果音を用いることがある。どのような擬音が使用され，本稿で言及される表現が，どれ位，対応するのか，考えてみるのも一興である。

人 間 的

目は開けなければ見えないが，耳は傾けなくても聞こえる。山中で仙人の様に隠遁するまでもなく，自然の多い所で生活すれば自然の音が聞こえて来る。しかし都会では，と限定するまでもなく，一般的な日常生活では人々の発する音に注意が向けられる。

≪言　語≫　まずは言語音であろう。日常での会話は，気心の知れた人とが多く，いわば馴れ合いになる。一般的に取り留めのない話である上に，省略表現を多用するので，赤ん坊の片言の様で BABBLE, PRATTLE が適用される。止め処ないので，早口で，おしゃべりであるとも見られ GIBBER, BLAB, GAB も適用される。俗語や方言や個人語が交じって外国語の様に聞こえることもある。

かつてのギリシャ人が言ったバルバロイを想起させるが，猿や鳥の鳴き声にも似て CHATTER, JABBER も適用される。早口での GABBLE は鵞鳥を連想させる。更に，高笑いも加わって賑やかだと雌鳥の様で CACKLE である。何を言ってるのか分からない，ということになれば，単なる騒々しい音として CLATTER, RATTLE も適用される。

これら話し手の音調は会話全体をも暗示するが，より明確に，そのことを示す表現もある。歓声を上げてドンチャン騒ぎをするのは CAROUSE である。ひょんな事で口論になると BICKER, QUARREL が適用されるか。快・不快のどちらであれ，些細なことで人間は大騒ぎしているのかも知れない。FUSS である。

ところで，徐々に出来る人の波は，文字通りの音を発し RIPPLE が適用される。人々が，あちこちで忙しく動き回るのは BUSTLE であり，雑踏するのは BUZZ, HUM である。そこに，車の音や呼び声や音楽が加わっての喧噪には CLAMO(U)R が適用されるか。朝，静かだった街に活気が漲り，賑やかに

Hosei University Repository

なる様を重ね合わせて見ることも出来る。

話は日常会話に戻って，分かり憎い事では共通するが，稀なので耳に残る喋り方もある。文字と同様で，不明瞭につなげて話すのは SLUR である。舌足らずでなら LISP であり，震え声でなら QUAVER が適用されるか。ノロノロ話すのは DRAWL であり，物憂気になると DRONE が挙げられるか。

個人の習性的な喋り方は一時的な言語行為としても現われる。物憂気で，祈禱する様に抑揚がつくと INTONE であり，一方，繰返しが多く，呪文の様であると CHANT である。最早，喋るのではなく歌う SING である。低い声で静かに歌うのは CROON である。鼻歌交じりのこともあろう。鼻音による HUM が適用されるが，口と鼻が，つながっていることが良く分かる。ついでながら口笛でも曲は吹ける。

指笛を含め，口笛を吹くのは WHISTLE であり，短く鋭く吹くと犬を呼び寄せられるか[1]。観衆が手を叩きながら，あるいは足を踏み鳴らしながら吹くこともある。共に囃しているのだが，前者は，称賛を表わす ACCLAIM, APPLAUD であり，後者は拒絶を表わす。文字通りブーブー言う BOO，汽笛の様でもあるがホーホーと梟の鳴き声を真似ることになる HOOT[2]，蛇や鵞鳥を真似ているのであろうかシーッと言う HISS も後者の仲間であるが，どれも犬や猫を追い払うべく使われもする。また，鼻をフンと吹く SNORT，クンと吸う SNIFF，唾を吐く SPIT と共に不満や軽蔑を暗示する。ついでながら口笛の逆，つまり吸気により，唇，舌，喉で断続音を発する SMACK, CLICK, CLUCK は馬や鶏に，あるいは赤ん坊に対して注意を喚起すべく使われる。

≪前言語≫[3] 馴れ合いの日常会話やドンチャン騒ぎは感情的であり，人々の声は笑っている。笑うのは，一般的には LAUGH であるが，大声で笑う，押さえて笑う，更に本稿では枠外となる，声を出さずに笑顔で笑う，などが挙げられる。

更に，感情的な大きな声も飛び交う。叫ぶのは CRY であるが，一般的に大きな声を発することには SHOUT が適用される。女性的な金切声や，男性的な怒鳴る声や，更に，中間的な吠える声が考えられる。これらの動物的な叫び声[4]は唸る程度にまで押さえられることもある。後は，聞こえる様な聞こえない様な声でボソボソ言うことになる。SHOUT に対立する囁やく WHISPER が仲間である。

Hosei University Repository

ついでながら LAUGH に対立する泣く CRY を挙げざるを得ない。こちらも大声で泣く，押さえて泣く，更に本稿では枠外の，声を出さずに涙を流して泣く，などが考えられる。涙を潤ませる程を除けば，人前では余り見掛けない。目や顔を脹らす程に泣くのは BLUBBER であるが，泣くと鼻水が出て，啜ることになる。口は鼻と，更に目とも，つながっていることが良く分かる。

≪**生理的**≫ 「物言ワヌハ腹脹ルル業」であり，大声を出して，笑って，ストレス解消するのは生理的なことではないのだろうか。また，意識が朦朧として譫言を言う RAVE も同じ様に説明されないだろうか。

更に前言語の段階にある乳幼児が発する音を考えてみよう。何が楽しいのか機嫌良くクークーと喉を鳴らして喜ぶのは COO であり，キャッキャッと喜ぶのは CROW である。何があったのか，ギャーと泣き叫ぶのは SQUEAK であり，御機嫌斜めで「ぐずる」のは GRIZZLE である。どれも生理的ではないのだろうか。

ところで，本来の，いわゆる生理的な音を，特殊な状況で出すであろう震え声を出発点にして展開してみよう。まずは，人前なので緊張して震えている可能性が考えられる。心臓も高鳴っているだろう。側に居る人にも聞こえる程に PALPITATE, THROB が適用される。ついでながら，然るべく脈打つのは PULSATE である。ときにボーッとなって耳鳴りがして SING, RING が適用されるか。深呼吸して落着くことが，まず第一であるが，無意識に溜息をつくこともある。共に SIGH が適用される。しかし最早，高じてしまって喘ぎ始めると PANT, GASP である。舌が縺れて吃ることもあろう。STAMMER, STUTTER が適用される。

一方，寒さ故に震えている可能性もあるだろう。ゾクゾクして嚏をするのは SNEEZE である。鼻を垂らし始めると SNIVEL が適用されるが，クンクン啜ることも意味する。後者には臭いを嗅ぐことも意味する SNIFF(LE) あるいは SNUFF(LE) も適用される。鼻が詰まって喘ぐのは PUFF and BLOW である。ついでながら鼻を擤むのも BLOW である。

喉が可笑しくなって，声が割れるのは CRACK であるが，咳払いするのは HEM である。横隔膜が刺激されて，吃逆をすることもあろう。HICCOUGH, HICCUP である。唾を吐くのは SPIT であるが，喉が涸れて唾も出ない。ついでながら，嗽をするのは GARGLE である。

咳をするのは COUGH であり BARK も適用されるが，その回数も増え，

Hosei University Repository

押さえる度にゼーゼーすると WHEEZE が適用されるか。腹筋を使うこともあって，お腹にも影響し，噯，すなわちゲップが出ることがある。BELCH, BURP が対応するか。お腹が鳴るのは RUMBLE である。極端な場合は，咳込んだ途端に吐くこともあるか。VOMIT である。疲れているのかも知れない。欠伸も出て YAWN が適用される。もうこうなったら，身体を休めるべく横になった方が良い。鼾を掻くのは SNORE であるが，この際は，「うるさい」と文句は言われないだろう。

物　理　的

かなり自由に動かすことの出来る身体部位の口・手・足・は，その機能を果たすと共に，多くの音を生じさせる。それらもまた，人々の発する音である。多くの≪物理音≫は，その延長線上に置かれ整頓されるように思われる。楽器が奏でる音も含まれるが，楽器は人間が創造した物であり，人間だけが出せる音である。

≪口・手・足≫[5]　人間の口は喋る他，食べたり，飲む機能も果たす。そして，物を食べたり，飲む際には，諸々の事情により，騒々しい音を立てることがある。ここでは，ひとつだけ SLURP を挙げておこう。器用な手は，掌，指先，爪，指の腹，手の甲，拳などで音を発する可能性がある。足は不器用ではあるが強力で，より大きな音を出す。例えば，階段などをトントン上り下りするのは CLATTER である。

≪物理音≫　食物をバリバリ，音を立てて咬む CRUNCH は，砂利や固い雪の上を，音を立てて歩くことにも適用される。枯落葉や紙袋は，触れただけでも，かなりの音がする。器用な手で紙を丸めるのは，CRINKLE である。絹［衣］擦れを含め，葉や紙が擦れて音を出すのは RUSTLE であるが，本の頁を捲ることも意味する。勢い余って破くことがあるが，布を含め，あの音には ZIP が適用される。

ときに砂や雪も踏む度に鳴くことがある。歯軋りの GNASH に通じる。爪で引掻く SCRATCH は磨りガラスを軋らせ，ペン先が紙の上でガリガリ言うことにも適用される。ゴム底靴をキュッキュッと泣かせたり，ヴァイオリンをキーキー泣かすのは，文字通り擦る SCRAPE である。テーブルや本棚が重みで軋るのは GROAN である。これらは，より仰々しい音へとつながっていく。

Hosei University Repository

機械の摩擦面が軋る音には，その原因となり得る砂の意を持つ GRIT が適用されたり，文字通り，堅い物を擦ることを意味する GRATE が適用される。蝶番い，の軋る音を含め，広く適用されるのが CREAK，JAR であろうか。危険を暗示するだろう車の急ブレーキの音には SCREECH，SQUEAL，SQUEAK などが挙げられるが，豚や梟が近くに居合わせたかの様である。

飲み物グラスの中で氷のカケラが，ぶつかる音には，寒さで震えて，歯がカタカタいう CHATTER が適用されるか。堅い音として手の甲などでの RAP に通じる。時計がカチカチいうのは TICK である。舌打ちの CLICK はハイヒールの踵の出す音や，弾の尽きた銃を打つ音も意味する。更に CLACK はゲタの音，手織りの機の音までも含む。これらは金属やガラスが，ぶつかる音へとつながる。

乾杯のグラスの音やポケットの中のコインの音には CLINK，CHINK が適用される。より大きな音として，刀のぶつかり合う音，重い鎖や，束ねた鍵のジャラつく音には CLANK，JANGLE が適用されるか。また，フォーク，ナイフ，皿が，ぶつかってガチャガチャいうのは CLATTER である。更に大きな音として，皿や窓ガラスがガシャンと割れるのは，列車や飛行機の衝突までも意味する CRASH である。派出な音のする鍋やフライパンは，シンバルのような CLASH が適用される。鐘が鳴り響くのは CLANG である。

指を鳴らす SNAP や，爪で弾く FLIP は，早く強く打つとパチッと鋭い音を立てる程に鞭の音にも適用される。爪や指で弾く FLICK や，キッスの音の SMACK が，平手打ちを含め，鞭の音までも意味することに通じる。鞭の音には罅割れを暗示する CRACK も適用される。今，挙げたばかりの SNAP は更に，薪が燃えてパチパチいう音にも CRACKLE と共に適用される。蠟燭が燃えてパチパチいうのは SPIT であるが SPUTTER も挙げておこう。

手を叩く CLAP は本をパタンと閉じる音にも適用される。平手で叩く SLAP は，本などをテーブルに放る様に置くことも意味する。掌で触れる程度から，軽く背中を叩く程度まで，足であっても構わないが，置く様に叩くのは PAT である。所在なく指でトントンとテーブルなどを叩くのは THRUM である。弾む様に叩くのは TAP であり，手や足，更に鉛筆や棒でトントン叩くことも含む。これらは，更なるつながりを持つ。

団扇を持ち，拍手する様に他方の手に打ち付けて風を送るのは，鳥の羽ばたきに似て FLUTTER であろう。今，挙げたばかりの CLAP も鳥の羽ばたき

Hosei University Repository

の意を持つので再び，ここに記しておく。パンフレットや折り畳んだ新聞紙でバタバタ払ったり，叩くのは FLAP であるが，蠅叩きで叩くことには SWAT が適用されるだろう。ついでながら，柔らかい物だと，グシャッと潰すことになり SQUASH が適用されるか。どれも平らな面が関わり鈍い音がするが，早く打つと，この前に記した鋭い鞭の音に近づくか。

拳で叩く THUMP は，バットなどが，たまたま，ぶつかることも意味する。叩くことの繰返しを強調する POUND は，拳の音だけでなく足音にも太鼓の音にも適用される。ドシンドシン歩くのは CLUMP である。体重を腰や背中で受けてドサッと座ったり横になるのは，重い荷物をドサッと置くことも意味する PLUMP であるが，重い物が落ちたり倒れるのは THUD である。これらも更に大きな音へとつながっていく。

重い物をドサッと置いたり，ドアをドーンと閉めるのは SLAM でもある。BUMP は車を含め，ぶつかる音を連想させるが，車が凸凹道をドスンバタン進むことも意味する。拳で叩く音から，今，記したドアの音，更に大砲の音までも BANG は表わす。明確に爆発の音を示すのは EXPLODE である。

≪楽　器≫　古典的には打楽器，管楽器，弦楽器と分類されるが，器用な手を中心に，口は言うまでもなく，ときには足までも駆使することになる。楽器を演奏するのは PLAY であるが，その音が響くのは SOUND である。

打楽器は，単独だったり，一組だったりの，いわゆるドラムに代表されるか。大凡ステックで叩くが，文字通り DRUM が適用され，繰返しを強調すると BEAT である。同一ドラムでの早い連打は ROLL であり，巻き舌やローラーカナリヤを思い起こさせる。ところで≪物理音≫では金属音の延長線上に鐘を記したが，こちらも単独だったり，一組だったりする。一般的には RING が適用されるが，大きく鳴り響かせるのは PEAL であり，メロディーを奏でることを強調するのは，楽器のチャイムを連想させる CHIME である。同じ音を，ゆっくりと繰返し打つのは TOLL である。小さな鐘である鈴[6]に対しては，特に JINGLE，TINKLE も適用される。

管楽器は，一般的には呼気によって吹き，口笛の延長線上に位置づけられ，BLOW が適用される。特にラッパ類が，けたたましい音を立てるのは BRAY，BLARE，TOOT である。笛を吹くことには管を使っていることを強調する PIPE も適用されるが，バグパイプが鳴り響くのは SKIRL である。

弦楽器は爪弾くことで音が出る場合が多く PLUNK，PLUCK が適用され

Hosei University Repository

る。弦の震動する音によっては，鼻音で真似られる程に TWANG は両方の音を，それぞれ出すことを意味する。弦楽器を掻き鳴らすのは STRUM あるいは THRUM でもあるが，何気なく，それも文字通り弦を掻く程度に鳴らし，上手でないことを暗示する場合もある。弦楽器は身構えなくても音は出せるということか[7]。

ところで現在は，電気あるいは電子を利用した楽器がある[8]。まずは，アンプを用いて音を拡大することが考えられる。アンプがマイクと共鳴して出す，あの音には HOWL が適用される。アンプが，がなり立てるのは BLARE である。音が響き渡るのは RING であるが，耳に残る程に，耳鳴りの意もあることは，既に記した。また，音は装飾することが出来，山彦の様に反響するのは ECHO, RESOUND であり，震動するのは VIBRATE である。ところで音を響かさず籠らせるのは MUTE であるが，弱音器の意もあり，楽器によっては有効な演奏法である。ついでながら同意の MUFFLE には，防音の意もあり，ピアノや車のマフラーを思い起こさせる。

ここで，楽器以前の音ではあるが，騒音の代表である車を考えておかなければなるまい。走り出す前には，低音で玉を転がす様な快いエンジン音を響かせることがあり PURR が適用される。しかし，一般的にはモーターや扇風機にも共通の HUM, BUZZ であろう。吹かした時には ROAR, BELLOW が，ミニバイクには BLEAT が適用されるか。ついでながら，急ブレーキの軋る音には既に言及した。

オンボロ車，荷車，列車，運搬車，戦車など LUMBER, CLATTER, RATTLE, RUMBLE が適用されて走る車もある。ついでながら，機械類でも余計な複雑な音が加わると CHATTER である。蒸気機関車などは CHUG であるが，ときに喘ぐ様に聞こえ WHEEZE が適用されることもある。

自　然　的

かつての，代表的な擬音として挙げられる，波，雨，馬の蹄の音，更に，既述した鳥の羽ばたきの音などは，どれも，いわば自然の音なので，自然の音も≪(前) 言語≫≪ロ・手・足≫の延長線上に置かれるのではないか，と思えてくる。あるいは，自然に対して良くある擬人化によって比喩表現が使われないのか。妥当する部分もあるが，少なくても動物の鳴き声は独特で，その逆であ

Hosei University Repository

ることが分かってくる[9]。

≪動　物≫　人に馴れている，いわばペットを含め家畜や家禽を中心に，それらが発する音，特に鳴き声を考える。まずは犬と猫から始める。

犬が吠えるのは，一般的には BARK である。猟犬が獲物を追い詰めて吠えるのは BAY である。今にも飛び掛かろうと唸るのは GROWL, SNARL である。小犬を含め，キャンキャン鳴くのは YAP, YELP である。足でも踏まれたのかも知れない。悲し気にクンクン鳴くのは WHIMPER, WHINE である。同じ犬科の狼を連想させる遠吠えは HOWL であり YOWL である。

猫が鳴くことには，鳴き声そのものを表わす MEW, MEOW, MIAOU, MIAOW が挙げられる。満足気に喉をゴロゴロ鳴らすのは PURR である。背を丸めてフゥッと唸るのは SPIT であるが，人間も，既述した如く，同じ様なことをする。猫科として図体の大きいライオンなどには声が轟く ROAR が適用される。

馬が「いななく」のは，一般的には NEIGH であるが，御愛想しているかの様に「いななく」のは WHINNY であろうか。鼻を鳴らすのは SNORT であり，轡を咬むのは CHAMP である。同じ馬科の驢馬が，けたたましく鳴くのは BRAY である[10]。ついでながら乗馬では，基本として，馬の走り方を学ぶが，蹄鉄をつけた，あの音には CLATTER が適用される。

牛が鳴くのは鳴き声自身を擬する MOO であるが，類似した LOW もある。更に，鞴を連想させる BELLOW が適用される。前者が雌，後者が雄を暗示するか。ついでながら象にも後者は適用される。象はまた，音だけでなく，鼻の形状の類似にもよるのか TRUMPET も適用される。

豚は，絶えずブーブーと不満気に鳴いて GRUNT が適用されるが，実際には，頗る機嫌が良かったりする。激昂して高く鳴くと SQUEAL である。ついでながら，羊や山羊や子牛も，いつも愚痴っている様で BLEAT が適用されるが，鳴き声自身を表わす BAA もある。

家禽としては鶏が，まず挙げられる。雌鳥の高い声は CACKLE であるが，卵を抱いている時は CLUCK である。雄鳥が高慢そうに鳴くのは CROW であり，時を作ることもある。雛に対しては CHIRP, PEEP, CHEEP が挙げられるが，これらは小さな野禽にも適用される。ついでながら，一般的に囀る鳥には WARBLE, TWITTER, TWEET が挙げられるが，既出の SING に総括される。また WHISTLE あるいは PIPE が適用される鳥もいる。

Hosei University Repository

その他の家禽としてアヒルは QUACK, 七面鳥は GOBBLE, 鵞鳥は GABBLE, 鳩は野生もいるが COO である。ついでながら野鳥の烏は CAW であるが, 蛙の鳴き声にも似て CROAK も適用される。梟は一般的には HOOT であり WHOOP もあるが, ときに金切声の SCREECH などが適用される状況もあり, それは鷗や鸚鵡をも思い起こさせる[11]。鳥だけでなく獣も含めた鳴き声は, CRY に総括され, 賑やかな猿山やジャングルには CHATTER が適用されることを付記しておく。

昆虫の鳴き声は, 一般的には, 既述した雛の鳴き声に通じる。代表的なコオロギは CHIRP, CHIRR である。これらも SING に総括されることは言うまでもないが, 発声器官は羽である。昆虫はまた, その羽を使って飛びもする。蜂に代表されるブーンという音には BUZZ, HUM が, 更に, かなり大きな音を連想させる BOOM が適用される[12]。ついでながら, 大小の鳥が羽ばたくのは, 蝶や葉が舞うことも意味する FLUTTER, FLAP である。

≪大　気≫　鳥が羽ばたく音は羽が身体に, ぶつかる音が主体であろうが, 小さな昆虫の場合は, 羽が風を切る音であり, 既述した扇風機の羽音に共通する。単純にはバット, 否, 腕を早く振るだけで十分, 同様な音が得られるが, 鞭や釣竿をビュッと振るのは SWISH である。弓矢の矢や, 鉄砲の弾が風を切るのは WHISTLE, WHIZ, ZIP である。鳥でも滑空する場合は, ここに含まれる。快走する特急列車も挙げておこう。

空気の中を何かが早く動くのではなくて, 空気自身が早く動く場合を考えてみよう。言語音は, 呼気を圧縮し, 狭い通路から押し出すことで発せられるが, 同様にして, コルク栓を圧縮空気でポンと飛ばす, おもちゃの鉄砲には POP が適用される。シャンペンの栓を飛ばす際の, あの音に共通する。脹らませた紙袋をパンと破裂させることにも適用されるが, その際に, ゆっくり押してやると, 空気が漏れることがある。漏れる物は他に蒸気, ガス, などが考えられるが, 既述した追い払う意を持つ HISS が適用される程に, その場を離れた方が良いか。そして, 空気の漏れるタイヤのチューブは, 押してやると口笛を吹く。

より自然な場合となると風を考えることになる。微風がサワサワと葉の繁みを渡ると MURMUR が適用される。風が呟くというのだろうか。囁くというのなら WHISPER である。泣いている様で SOB が, 歌っている様で SING が適用されもする。仲間として RUSTLE を再び記しておこう。

Hosei University Repository

これらは主に葉が擦れ合う音である。風が強くなると旗などの布切れが，バタバタと落着きをなくし始め，鳥の羽ばたきの FLAP, FLUTTER が適用される。建て付けの悪い窓もガタガタ言い出し RATTLE が適用される。高圧線も唸り始めるが MOAN であろうか。それ程までに叩き付ける風には WHIP, LASH が適用されるが，風が地上の物にぶつかり，逸れて，渦巻くことで大きな音を上げ始める[13]。ピューピュー言い出すと WHISTLE とか SCREAM が適用されるが，ゴーゴー轟くのは ROAR, BELLOW である。

≪水≫ 風が吹くと静かだった池や湖の水面も波を立て始める。葉の繁みと同様な表現が適用されるので，ここでは記さないが，岸辺ではピチャピチャと舌嘗りする様に波が打ち LAP が適用されることを記しておこう。

ついでながら，サラサラと流れる小川にも葉の繁みと同様な表現が使われるが，ここでは BABBLE を仲間として付け加えて置きたい。更に PURL, BICKER も適用されるか。流れが激しくなって，部分的にドッと流れるのは FLUSH であり，ウィスキーボトルを一気に傾けて注ぐが如く，ゴボゴボと泡立って流れるのは GURGLE である[14]。

一方，海では波が大きくなり，空気を巻き込み始め，どよめく。砂浜では打上げられた泡が弾けて音を立てる。炭酸飲料のそれに似て FIZZ が適用され得る。推して，気体の漏れる音の HISS が適用されることは想像に難くない。ついでながら，泡は加熱によっても生じる。

熱した油の中で，あるいは焼肉などの表面で無数の細かな泡が跳ねる音には SIZZLE あるいは FRIZZLE が適用される。水もまた，沸騰し始めると音を発し SING も適用されるか。グラグラと沸騰して，大きな泡を立てて波打つと BUBBLE, SEETHE が適用される。しかしながら，僅かな水や油を沸騰させるとピチピチ跳ねて，既出の SPUTTER が適用される。

切り立った岩を従えた岩場では，風と波が，それぞれ，ぶつかりあい渦巻き BLUSTER, RAVE あるいは ROAR, RAGE が適用される，まるで嵐の様な状況となる。波が激しく岩を打ち，風と同様に，再び WHIP, LASH を挙げざるを得ないが，ドーンという大音響と共に水飛沫を上げる。ここで飛沫について少し考えてみよう。

飛板飛込みの名選手は静かな水面に飛込んでも飛沫を，ほとんど上げず，小石でも投げ込んだかの様で PLOP が適用される。PLASH では，まだ良い点数は得られない。失敗して大きな音と共に大きな飛沫を上げるのは SPLASH

Hosei University Repository

であるが，より広く，一般的にも適用される。特に，水面上で，手足を動かして，バシャバシャと飛沫を飛ばすのは DABBLE，SPLATTER である。

ということになると水が波立ち，泡立つのは，水が飛び跳ね，飛び散ることではないのだろうか。今度は整然と持続する飛沫を考えてみる。水道管が破裂した場合，水が漏れる音は既述の気体が漏れる音に通じるが，飛沫を上げた後で地上に降り注ぐ音が加わる。人工的には噴水やスプリンクラーが連想されるが，自然の状況ならば雨である。雨の降り始めは，いくつもの水滴がパラパラと降り，飛沫で跳んだことも意味する SPATTER の他，SPIT も適用され得る。更にドングリの実でも降ってきた程に PATTER が，あるいは BICKER が適用される。ついでながら，雨の降る音は，風が戦ぐ音や小川が流れる音と間違えられる程に，類似した表現が使われる可能性があることも，付け加えておきたい。

ところで雨上がり，あちこちで雫が垂れる音には，蛇口からの水滴も含め，DRIP が適用される。また drip dry では，水から上げたばかりの洗濯物からは，水が激しく流れ落ちる。話を戻せば，雨が激しく降り注ぐ状況であり，共に POUR が適用される。雨が，大地や屋根や窓を，激しく叩くのは PELT であり，風や波にも共通の LASH，WHIP を再び記さざるを得ない。滝の様に降る雨も，強風が吹くと，しぶき，飛沫を飛ばす。

激しく叩き付けるということでは，雹や霰にも言及せざるを得ない。RATTLE であり，今，挙げたばかりの PELT も適用されるか。この様な天候異変には雷が鳴り響くことがある。遠雷には RUMBLE が適用される。既述した微風，漣，小川，雨の音にも似て，同様な表現も使われるが，ここでは，何か呟いている様に聞こえ MUTTER が，あるいは，唸っている様に聞こえ GROWL，GRUMBLE が適用されることを記しておく。深く沈む様な轟きには BOOM が，陽気な轟きには PEAL が挙げられるか。はっきりと，ゴロゴロと何かが転がるような音を強調するのが ROLL である。更に，文字通りの THUNDER も挙げざるを得ない。激しさを増すにつれ雨や風を誘い，既述した岩場の嵐の様な状況となり，ROAR，RAVE，RAGE などが適用されることにもなる。電光に先導された落雷の音には CLAP，CRASH 更に CRACK も適用される。空に住むドラゴンが，機嫌を損ないブツブツ言い出し，唸り，わめき，ついには口から火を吐きながら，身体を転がし捩って，尾を大地に叩き付けているが如くであろうか。

Hosei University Repository

≪注≫

（1） 名詞表現として wolf whistle があるが，男性が吹くことで魅力的な女性を呼び寄せることが出来るか。

（2） 梟の鳴き声には WHOOP も適用されるが，こちらは歓声を上げることを意味するので，ホーホーは口笛と同様な囃す意を持つと解釈した方が良いのか。

（3） 「SPEAK と TALK を代表とする意味場の分析」のうち≪前言語≫と大凡，重複するので，ここでは略述しておく。

（4） 楽器を連想させる TRUMPET，BLARE も加えておきたい。

（5） 「口・手・足から連想される英語動詞群の意味分析」に大凡，包摂されるので略述しておく。

（6） 音自身の類似や共通性からではなくて，名称によって，つまり bell と呼ばれる物には全て RING が適用されるか。

（7） 調律するのは TUNE であるが，楽器でも，特に弦楽器を演奏する際には，絶えず注意を怠るわけにはいかない。また，車などのエンジンにも適用される。

（8） 良く耳にする電子音には BLEEP が適用されるだろう。また，ここでは録音（再生）のことも考えるべきか。

（9） まずは，今，言及したばかりの車が関わる音には動物の比喩が多く使われていることが分かる。

（10） BRAY という表現を耳にした時に，ラッパと驢馬の，どちらを先に連想するのであろうか。

（11） ついでながら，小動物として鼠が鳴くのは，一般的には CHEEP，PEEP であるが，ときに，窮鼠を連想させる SQUEAK などの金切声も適用される。この様に明確に異なる二種の鳴き声に関わる表現を従える動物は，既述した通り，他にもいる。

（12） 蜂は元より蠅や蚊に出会えない都会でも，既述した通りの雑踏や，交通量の多い道路の音は窓を閉めておいても聞こえてくる。

（13） 少し強い風が吹いただけでも耳自身に風が当たって渦巻く音が聞こえる。（両）手を叩くと出る音は，どちらの手の音であろうか，程は難問でないまでも，どこまでを風の音として考えるべきなのであろうか。

（14） 赤ん坊だけでなく，鳥や他の動物が喉をゴロゴロ鳴らす音にも適用される。